



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ	1
当院における肩・肘関節疾患への取り組み	2・3
新任看護師紹介	4
糖尿病教室からのお知らせ	4
当院の乳腺外科について	5
トピックス	6
ふれあい看護体験より 病院職員紹介	
地域連携医のご紹介 外来担当医表	7
編集後記	8
広報誌読者からのご意見等募集案内	8



ごあいさつ

この数年地球温暖化のためか、または単に日本が熱帯化したのか、「猛暑(というより酷暑)」と「ゲリラ豪雨」が夏の代名詞として定着した感がありますが、皆様におかれましては自己管理・自己防衛でこの過酷な気候に対処し、日々ご活躍のことと思います。

亀岡市立病院は、今年2月に新しい院長を迎え、半年が過ぎました。時代の要請と変化に翻弄された初期の10年間を乗り越え、新たな体制で進むべくシステムの見直しと改変に取り組んでいるところで、少しずつながらその変化を感じる様になりました。しかしながら最大の懸念である医師確保の問題は未だ深刻であり、病院長を含めまして13名の常勤医師の体制(内科4名・外科3名・整形外科4名・小児科1名・麻酔科1名)では、特に夜間・救急医療と検診事業の面でいまだ市民の皆様のご要望に十分にお応えするのは困難な状況が続いております。現在は多くの非常勤医師(ほとんどが京都府立医科大学からの派遣医師)の協力を仰いで日々の業務を遂行しておりますが、一人でも多くの常勤化(特に内科医)が先の課題の克服には不可欠であり、病院開設者および病院長は日々腐心されているところです。当院は小規模ながらも各医師が行っている医療内容は、決して基幹施設に劣るものではありません。しかし医療の本質は「継続性」です。その一瞬で解決する事は極めて希で、日々変化する病状を的確に把握・対処し、本来あるべき状態に修正を加える事が求められます。この作業は24時間365日休むことなく続けられる必要があります。そのためには一人の医師が全てを負うのではなく、複数の医療人(医師・看護師・各種専門技師)が関わる「チーム医療」が、特に重症疾患の治療には必要不可欠であり、こうした観点からも「医師の数」は極めて重要な課題なのです。市民の方々からは幅広い診療の要請も多く聞かれますが、小規模の施設にあっては限られた医療資源を有効に活用する為に、まず最も求められるニーズを把握したうえで、それに対応できる診療体制を確立する事が重要です。その上で充実した診療を行うことで市民の皆様の健康と安全の確保に寄与したいと我々は考えます。一方で国が推進している医療機関の再編成の問題も避けては通れません。超高齢化社会への対応も見据えつつ、玉井院長のもと努力を重ねて参りたいと思っておりますので、引き続きご理解とご支援の程お願い申し上げます。



亀岡市立病院 医療管理監 兼 副院長

天 池 寿

当院における肩・肘関節疾患への取り組み

整形外科部長 坂部 智哉

はじめに：

整形外科が扱う疾患は、外傷などの急性期疾患、徐々に進行する関節痛などの慢性期疾患、骨粗鬆症などの代謝性疾患、リウマチなどの自己免疫性疾患などきわめて多岐に渡り、それぞれの疾患に対して、投薬、関節内注射およびリハビリテーションなどの保存療法と、機能障害回復を目的とした手術療法と術後リハビリテーションを行っています。つまり、整形外科治療とリハビリテーションは切っても切れない関係にあり、当院では相互に綿密な連携を取りながら日々の診療にあたっています。今回は、筆者とリハビリテーション科(図1)が精力的に診断・治療を行っている、肩・肘関節疾患への取り組みについて紹介したいと思います。



図1：リハビリテーションスタッフ

青少年における肩や肘のスポーツ障害：

健康的な生活を送るためにスポーツ活動への関心は年々高まってきており、亀岡市においても老若男女を問わず、スポーツ活動は年々盛んになってきています。スポーツ障害は競技年齢や競技種目によって多種多様であり、競技特性に応じた専門的なアプローチが必要となってきます。特に、野球は肩・肘関節の障害をきたしやすいため、当院では2012年から、野球少年に生じる投球障害(野球肩・野球肘)に対する啓蒙活動の一貫として、亀岡市軟式野球連盟主催による少年野球指導者および選手講習会を開催し、予防と早期発見・治療が重要であることを訴えています。この講習会で投球障害問診票を亀岡市の少年野球全チームに配布した結果、問診票の回収率が低いチームほど投球障害が多く発生していることが分かりました。つまり、指導者および選手家族の投球障害への意識と理解が低い場合、投球障害に気づかずに子どもたちにプレーさせている可能性が高く、これが投球障害の重症化の一因となっていると思われます。投球障害は軽症であれば、投球禁止などの安静で十分に治るため、早期のスポーツ復帰が可能です。復帰後の再発を予防していくことも重要です。つまり、肩や肘だけでなく、体幹や股関節周囲の柔軟性を獲得するためのコンディショニングと呼ばれるリハビリテーションとともに、正しい投球フォームへの矯正が必要となってきます。当

院では学校が終わってからも受診できるように、月曜日と水曜日の夕方にスポーツ外来を開設し、画像評価を含めた診察とコンディショニング指導やフォームチェックを行っています(図2)。まだまだ亀岡市の野球指導者・選手・家族への認知度は低いものの、徐々に受診してくれる野球少年たちが増えてきています。当院で治療した野球少年たちが、肩や肘の痛みを感じることなく野球に復帰し、当院で習得したコンディショニングをチームみんなで実践してくれることを期待しています。診察にくる野球少年たちの野球への熱意にはいつも感銘を受けます。その熱意に応えるべく、われわれ医療スタッフも日々努力し、投球障害における最新の診断・治療を提供したいと考えています。



図2：投球障害に対するコンディショニング

中年における肩関節疾患：

1. 肩関節障害の診断：

中年になると、夜間の肩痛で目が覚めてしまうとか、肩にひっかかる感じがするとか、肩の動きが悪くなってきたなどといった肩関節の障害を認めることが多くなります。整形外科には、「五十肩だと思って、放っといたらそのうち治ると言われて、半年間肩の痛みを我慢していたけど、全然治らなくて、肩も動きにくくなってきたので受診しました。」とおっしゃる患者様はたくさんおられます。確かに、中年における肩関節疾患として、肩関節周囲炎(五十肩)が代表的ですが、実はそれ以外の疾患がいくつもあります。肩関節痛の原因が、(1)炎症によるものか、(2)機能的な障害によるものか、(3)肩関節の動きや安定性に寄与する肩腱板(けんばん)が断裂したことによるものかを評価し、さらに、関節の動きにくさ(可動域制限)が、(1)疼痛によるものか、(2)関節拘縮(関節が固まった状態)によるものか、(3)筋力が低下したものを評価して初めて正確な診断と適切な治療に結びつきます。疼痛と可動域制限の評価に加えて、レントゲン検査やMRI検査などの画像評価を行うことで、本当に肩関節周囲炎(五十肩)なのか、もしくは、石灰沈着性腱板炎、肩峰下インピンジメント症候群、肩腱板断裂、変形性肩関節症、関節リウマチ、頸椎症性神経根症などといった別の疾患なのかを診断することができます。

2. 肩関節障害の保存療法:

肩関節は構造上、股関節や膝関節と比較しても、非常に不安定な関節であり、骨や周囲の筋・腱組織の解剖学的破綻によって疼痛が誘発されるばかりでなく、機能的破綻によっても疼痛が誘発されます。つまり、保存療法は安静により肩関節を固めてしまうことではなく、積極的に肩関節を動かすことで機能的な障害を元の状態に戻してあげることが目的です。肩関節周囲炎や肩峰下インピンジメント症候群の症状は、主に肩関節周囲の炎症と、疼痛による可動域制限が中心ですので、関節内注射で炎症を抑えつつ、機能障害を修復するような適切なリハビリテーションを行えば約2カ月で治ることがほとんどです。当院では、国内トップレベルの肩関節外科病院で行われているような、肩関節の動きにくさだけでなく、肩甲骨や脊椎の動きにくさ(肩甲胸郭関節障害)にも注目した最先端の肩関節リハビリテーションを、理学・作業療法士が研修にて習得・実践しており、良好な肩関節機能の回復を達成しています(図3)。

しかしながら、受診が遅れることによって診断と治療が遅れ、関節拘縮(凍結肩)となってしまう場合は、治療はきわめて困難となり、リハビリテーションを継続しても機能障害が残ることが多いため、こういった状態になるまでに適切な治療ができる整形外科を受診することが重要です。

図3: 肩甲骨の動きに注目したリハビリテーション



3. 肩関節障害の手術療法:

上記のような、積極的な保存療法を約3カ月以上行っても症状の改善しない、肩峰下インピンジメント症候群や肩腱板断裂に対しては手術療法が中心になります。特に、肩腱板は肩関節の動きと安定性に最も重要であるとともに、断裂すると元の状態に修復することはなく、徐々に断裂が拡大する傾向にあります。この断裂が進行すれば、筋力低下による可動域制限を生じ、さらには肩関節が変形して人工関節手術が必要となることがあります。そういった状態になる前に、できるだけ断裂した腱板の修復を行うことが望ましいと思われます。肩腱板断裂に対して、従来は直視下に関節を切開する手術が行われていましたが、近年では、関節鏡を用いた手術が主流となっています。当院でも患者様への負担をできるだけ少なくすることを目指して、高度な技術と特殊な器具を用いた関節鏡による腱板修復手術を2011年から本格的に導入しています(図4)。手術室スタッフと共に国内外研修にも積極的に参加し(図5)、習得した最先端の肩関節鏡手術の知識と手技を、年々増加している手術患者様に提供しています(図6)。



図4: ビーチチェアポジションによる肩関節鏡手術



図5: 手術室スタッフ



図6: 関節鏡下腱板断裂手術(スーチャーブリッジ法)

4. 肩腱板断裂の手術後:

関節鏡手術で肩腱板断裂の解剖学的破綻を修復した後は、再断裂を生じないように、肩外転装具を終日4週間装着することが必要です。長期間の装具装着は患者様の精神的負担となるため、整形外科病棟スタッフ(図7)による心理的ケアと、術後の疼痛を軽減するベッドポジショニングが不可欠です。さらに、病棟スタッフが工夫をこらした肩腱板術後パンフレットを作成し、安全で快適な入院生活を提供できるように努力しています。機能的破綻の修復を目的とした術後リハビリテーションは、独自のリハビリプログラムを開発し、機能障害の修復と退院後の日常生活指導を平行して行っています(図8)。退院後の日常生活動作とその注意点を具体的に列挙し、患者様に禁止動作への理解を深めてもらうことで、退院後の再断裂予防に努めています。また、入浴・更衣の際に装具の着脱を患者様1人でもできるような装具の開発と生活指導も進めており、少しでも患者様の入院期間が短縮できるよう取り組みも始めています。



図7: 整形外科病棟スタッフ



図8: 肩腱板断裂術後リハビリテーション(装具装着中)

おわりに:

筆者とリハビリテーション科が中心となって立ち上げた肩・肘関節疾患への取り組みは、麻酔科、手術室、整形外科外来、整形外科病棟および放射線科の各スタッフのご協力のおかげで、ようやく亀岡市民に認知していただけるようになってきたと思います。今後もスタッフ一丸となって、常に向上心を持ちつつ、肩・肘関節疾患に対するBest Care(ベストケア)を提供して行けたらと考えております。

新任看護師紹介

7月から新たに1名の看護師が入職致しましたので、ご紹介させていただきます。
なお、内容は①名前②出身③趣味など④皆さまへのメッセージです。



- ①名 前 松本 由佳理
- ②出 身 亀岡市
- ③趣味など フラダンス (以下フラ)



④皆さまへのメッセージ

平成27年7月より1病棟で勤務しています、松本由佳理です。

これまでは、産婦人科やNICU(新生児集中治療室)で経験を積んできました。以前までは、赤ちゃんの表情や動き等を観察して、赤ちゃんのタイミングに合わせたケアを行ってきましたが、現在では大人の方と関わらせて頂いているので、言葉として返事や反応が返ってくることに新鮮さがあり、刺激を受け、楽しい日々を送ることが出来ています。

そんなわたしは、表現するということが苦手な一面もあります。その中で、趣味の1つであるフラに通い始めました。フラでは、五感を大切に、女性らしさを養い、

表情や身体の動きひとつひとつに意味があります。言葉を発しなくてもちょっとした動きで相手に思いを伝えられることを知りました。日々の生活に慣れてしまうといふ、五感を忘れがちになってしまいますが、フラを通して五感を大切に、どんな場所でも表現をすることが出来るように、力をつけていきたいと思っています。

地元が亀岡ということもあり育った地に帰ってき、懐かしさや安心感があるこの場所で勤務することができると嬉しく思っています。

色々と戸惑うこともありますが、1日でも早く慣れて少しでもお役に立てるよう頑張っていきたいと思えます。ご指導のほどよろしくお願い致します。

糖尿病教室からのお知らせ

今年の夏は格別の暑さとなりましたが、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？

4、5月と職員の入替わり等で、お休みしていた糖尿病教室を6月より再開しております。今年度の教室は、6月「糖尿病と検査」、7月「食事療法」、8月「運動療法」、9月「薬物療法」と、糖尿病の全体像と治療の3本柱の順で進めております。

10月は看護師によるフットケアの大切さについてお話をさせていただきます。ずっと元気に歩いて頂くために、糖尿病の様々な合併症の中でも、生涯の大きな問題を引き起こす足病変について、日々の足のケアの大切さとケアの方法を学習していただいた後、少しでも災害についても触れた内容を企画しています。11月は、循環器内科医師から、糖尿病合併症に多い循環器疾患についてのお話を予定しております。

8月より着任した常勤の糖尿病内科：濱口医師と共に糖尿病の患者様はもちろん、糖尿病でない方も、生涯健康に過ごしていただくために参考となる教室内容にしていこうと考えておりますので、興味のある方は是非、教室を覗いてみてください。

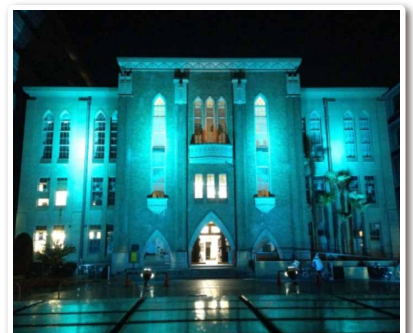
今後の予定

開催日	内容	担当
9月15日(火)	お薬の話①	吉見薬剤師
10月20日(火)	糖尿病と合併症	岡崎・江見看護師
11月17日(火)	糖尿病と循環器疾患(仮題)	福居循環器内科医師
12月15日(火)	糖尿病と検査②	原臨床検査技師

本院の糖尿病教室は無料で事前申し込みなしで、どなたでも参加していただけます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

なお、日程・内容の変更は院内に掲示しますのでご確認ください。

糖尿病委員会



当院の乳腺外科について

当院では週 2 回火曜日と水曜日の午後に亀岡市の乳がん検診を行っております。検診での検査は視触診検査とマンモグラフィー検査の 2 つからなります。

やや先になります、まだ今年を受け入れ枠に若干の空きがございますのでぜひお早めにお申込みください。

マンモグラフィーの写真を見ながら視触診を行う方式を同時併用方式といって最も精度が高くなる望ましい方式とされております。火曜日は西田真依子医師が視触診を担当し、水曜日は田中がしております。マンモグラフィーの読影は独立して 2 人の資格を有する医師がすることになっており、そのため総合的な精査の必要性有無の判定は当日はお答えすることができず、後日郵送となることをご了解ください。

当院での昨年度の検診実績ですが、亀岡市の市民検診のみで 922 名で、亀岡市民検診全体の約 6 割を占めております。検査の精度、すなわちきちんと検査できているかどうかの指標ですが、要精査率 6.9% 癌発見率 0.43% 陽性反応的中率 5.9% でした。まずまずの成績ではないかと考えます。

また週 3 回、月、火、水曜日に乳腺専門外来をさせていただいております。それぞれ担当医が一人で行い、かつ初診日に大体の検査を済ませてある程度の結論を出してお伝えすることを目指しており、そのため、お一人に 30 分の診療枠を設けており、そのため完全予約制にさせていただいております。予約はお電話でできますので、乳腺に異常を見つけたり、乳がん検診で要精査を指摘された方はまずは外科外来にお電話ください。

乳腺の精査として基本になるのが、マンモグラフィーとエコーになります。この 2 つはほぼ必ず初日に行います。マンモグラフィーをすでに検診や他院で撮影しておられる方は持参していただくことで省略できます。さらに必要に応じて MRI 検査を行います。MRI 検査は絶食で来院していただき、造影剤注射が必要なことから概ね初日に予約をして次回来院時に検査を行います。腫瘍が認められれば必要性に応じて穿刺して細胞もしくは組織を取る検査を行います。そうした検査の結果、乳がんが認められれば、乳がんの転移の有無の検査や乳がんの性格を調べる検査を経て、手術、放射線、化学療法などを必要性に応じて組み合わせながら治療を行います。

乳房再建など当院ではしていない治療もありますが、京都府立医科大学付属病院など適切に提携施設に紹介して協力しておこなっております。

化学療法も専用の化学療法室が 4 ベット備えられており、化学療法認定看護師も常駐しております。

なお前回の桔梗紙面にて 9 月から 3 人体制で行うと告知しましたが、非常勤医師の都合にて現在と同様火曜日が非常勤医師（現在は西田医師、9 月末から宮本医師に交代予定）、水曜が田中診療部長の体制で行います。お詫びして訂正致します。

診療部長兼外科主任部長 田中 宏樹

2013 年度マンモグラフィー併用検診受診率

受診率 27.1% = 受診者数 1,835 名 / 対象者 13,898 名 × 1/2 (隔年)

亀岡市立病院	922 名	京都市内施設	36 名
南丹市内施設	106 名	集団検診	736 名

(対象者の計算方法)

$N = A - B + (B/C \times D)$

N=対象者すなわち亀岡市在住40歳以上の非就業者及び個人事業者及びその家族従事者

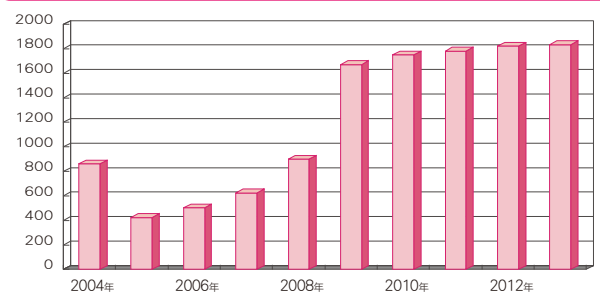
A=40歳以上女性人口 B=40歳以上の就業女性数

=15歳以上の就業女性数 D=15歳以上の個人事業者及びその家族従業者

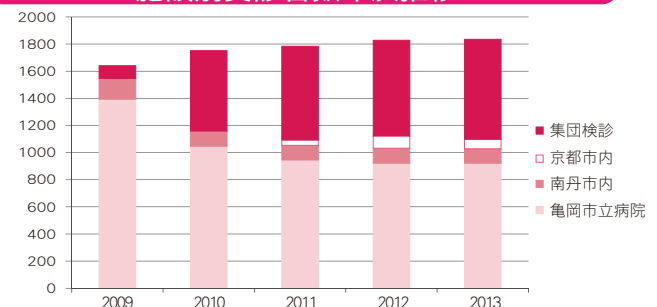
ABCDはそれぞれH2年、H7年の国勢調査から割りだし

マンモ併用検診の対象者は単純に総対象者の 1/2

マンモグラフィー検診受診者数の推移



施設別受診者数年次推移



Topics : ふれあい看護体験より

7月22日にふれあい看護体験を実施しました。これは「看護の日」の記念行事であり、次代を担う中学・高校生や一般市民が医療機関で患者様とのふれあいを通し、看護への理解と関心を高めることを目的としています。

今年は、京都府下の高校1年生1名、3年生3名の参加がありました。4名共に将来看護師志望であり、様々な興味や、想像を膨らませて臨んだ様子でした。

病棟では、血圧測定や聴診、患者様とのコミュニケーションを体験したり、入浴介助やシーツ交換見学などをしてもらいました。血圧測定器に触れ、初めはやや緊張した表情でしたが、実際に聴診器で心音や血圧測定の拍動音を聞いたりすると、「わあすごい、こんなにはっきりときこえるんですね。」と自然に表情が明るくなり、目をキラキラと輝かせている姿がとても印象的でした。高校生の純粋な感性にこちらも自然と笑顔になりました。

また、薬剤科、放射線科、栄養科などを見学してもらい、各部門の専門性や連携についての学びが出来ました。

体験後のふりかえりでは、制服を着た事から「ナース服を着られて嬉しかったです。」「看護師さんは患者さんと目線を合わせ笑顔で接しており、凄いなと思った。またそれを長時間続ける事はとても大変なのに、看護師

さんは大変そうにしているのではなく、楽しんでいるように見えました。」等の感想がきかれました。

次代を担う高校性が看護職に興味を抱いてくれることは、私たちにとっても大きな励みとなります。今後も地域の中高生に有意義な体験の場を提供出来るよう、努めていきたいと考えます。



病院職員紹介



看護部
看護師
一 島 美 菜

平成25年4月から勤務させていただき、今年で3年目になりました。

今年の夏は初めて天神祭りへ行ってきました。たくさんの屋台が並ぶ中でどれを食べようか、と悩みながら歩くのはとても楽しかったです。

花火大会で今回初めて開始2時間前から場所取りをしていましたが、やはり熱気が凄くて待っている間も汗がどんどん出てきました。花火がいざ始まると、その暑さも忘れるぐらいに近くから大きな音が響き渡り、花火が打ち上がってその綺麗さに思わず言葉を失いました。とても良い思い出になりました。

夏といえば花火、お祭り、プールなど夏休みに合わせて各地で様々なイベントが行われていますが、脱水や熱中症には注意して夏を満喫してください。



地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者様中心の医療を展開しています。

そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

佐藤 医院

院長：佐藤 俊之

住所：亀岡市吉川町吉田段ノ坪23

TEL：21-2525

標榜科目：内科、消化器科、小児科

診療時間：午前9:00～12:00、午後5:00～7:30

(小児科夜診受付は7:00まで)

土曜日の午後および木・日曜日、祝日休診



院長より一言

吉川町の佐藤医院です。平成15年に継承開業し、12年半が経ちました。内科医の私の他、小児科医の家内と内科医の父親、薬剤師の母親に加え、看護師、事務員とスタッフ皆で日々診療しております。乳幼児からご高齢の方まで幅広い年齢層の方々が来院されますが、通院ニコニコ(TEL:21-2525)をモットーに優しい対応を心掛けています。また、内視鏡検査や腹部超音波検査なども行い病気の早期の診断に努めております。特に上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)につきましては経口内視鏡に加え、遅ればせながらこの4月より経鼻内視鏡を導入し、胃カメラの苦手な方にも検査を受けていただき易い体制を整えました。

亀岡市立病院の先生方、地域連携室をはじめとする皆様にはいつも大変お世話になっております。これからも病診連携を大切にし、患者さんに最適な医療を受けていただけるよう精進したいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

編集後記

今夏も猛暑日の記録を更新し、残暑はまだまだ厳しいようです。

体調は崩されていませんか？

時が経つのは本当に早いものです。また一年、そして次の一年へと亀岡市立病院の歴史が刻まれていきます。この「桔梗」も19回目の発行となります。

さて9月は防災の月です。近年は災害の数、種類、被害の規模等が広がる一方で、いかに日頃の「備え」が大切か問われています。市立病院の私たちは、患者様はもちろんのこと、地域の方々の命を守る責務があります。防災の月にあたり、改めて「備え」を見直し、安心の砦として機能を果たせるよう心がけています。

広報委員会委員 林 裕佳(看護師長)

広報誌読者からのご意見等募集案内

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。

採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等のご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 谷 (平日、午前10時から午後3時まで)

外来担当医表

診療科	月	火	水	木	金
消化器内科	うえ はら ゆきこ 上 原 有紀子	たけ たに ひろ よし 竹 谷 祐 栄	おか だ よし ひさ 岡 田 頼 久	—	岡 田 頼 久
循環器内科	にし まさ ひろ 西 真 宏	やま なか りょう えつ 山 中 亮 悦	もと まし しんいちろう 本 山 晋 一 郎	ひく い けん すけ 福 居 顯 介	わ だ なお とし 和 田 直 敏
一般内科	き せ ら たい こう 木 村 兌 弘	けい じ ち ら なつ や 計 志 良 夏 哉 (予約のみ)	せ ら かみ まさ お 村 上 雅 朗	はま ぐち まさ ひで 濱 口 真 英	ち ねん よし あき 知 念 良 顕
神経内科	—	—	—	おお みち たく ま 大 道 卓 摩	—
糖尿病内科	—	—	はし もと よし たか 橋 本 善 隆	—	おお さか たか ひみ 大 坂 貴 史
糖尿病内科 (午後)	—	—	濱 口 真 英	—	—
ペースメーカー 外来	—	—	—	—	福 居 顯 介 (偶数月の第2週)
皮膚科	—	—	なか い のり あき 中 井 草 淳	—	あさ い じゅん 浅 井 純
泌尿器科	—	担 当 医	—	—	—
泌尿器科 午後(2時~4時)	—	—	—	ぬく い まさ のり 温 井 雅 紀 (第2・4週)	—
外科1診	おん いけ ひろし 多 田 浩 之 (第1・3・5週) おん ひろし 多 田 浩 之 (第2・4週)	担 当 医	た なか ひろ き 田 中 宏 樹	天池 寿	多 田 浩 之
外科2診	—	にし だ まい こ 西 田 真 衣 子 (乳 腺)	—	ゆたか ようじろう 豊 洋 次 郎 (呼 吸 器)	—
外科 午後(予約)	田 中 宏 樹 (乳 腺)	西 田 真 衣 子 (乳 腺)	田 中 宏 樹 (乳 腺)	—	—
麻酔科 (パインクリニック)	はし もと とも こ 橋 本 朋 子	—	—	—	橋 本 朋 子
眼 科	なが た けん じ 永 田 健 児	担 当 医	—	担 当 医	—
整形外科 1 診	さか べ とも や 坂 部 智 哉	たま い かず お 玉 井 和 夫 (予約のみ)	坂 部 智 哉	つじ よし ろう 辻 吉 郎	辻 吉 郎
整形外科 2 診	いち まる こう そつ 市 丸 宏 三	市 丸 宏 三	市 丸 宏 三	—	担 当 医
整形外科 午後(予約)	坂 部 智 哉 (スホ-リ・肩関節)	—	—	—	—
小 児 科	てら まち しん じ 寺 町 紳 二	寺 町 紳 二	寺 町 紳 二	寺 町 紳 二	寺 町 紳 二
小児科 午後(予約)	寺 町 紳 二 (循環器)	寺 町 紳 二 (予防接種)	寺 町 紳 二 (予約外来)	寺 町 紳 二 (循環器・アレルギー)	寺 町 紳 二 (予約外来)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
 TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～